

五十年前の思い出

吉田 長作

突然、記念出版の原稿の依頼を頂きましたが、もともと文学的才能のない私にとって、一番苦手な仕事。実は私達の担任した六期生(小笠原哲治先生、柏木重興先生と私の三人)も文集「急須」を毎年一回出版し、現在までに七号を出版いたしておりますが、これも他の二先生は亡くなられて、生存者は私一人、原稿を出せ、出せと出版責任者の北館賢氏達に責められ、四苦八苦の有様です。

このような仕事をする位なら、畑の草とりでもさせられた方がずっと楽なのですが、そうやって逃げる訳にもいかないと、一寸皆さんの中学入学当時のことでも回想し、ご勘弁願いたいと思います

皆さんのご卒業が昭和28年ですので、私の計算に誤りがなければ岩手中学入学が22年4月と思いますが、私の教員生活のスタートも昭和22年4月、まあ同級生みたいなものと思って頂きたいと思います。当時は岩中の校舎も木造でかなり古く、学校の周辺は河北小学校もなく、山田線の線路まで一面の田圃で(仁王田圃)、多くは三田の学校田で、私たちも生徒の実習に

田の仕事と上田の旧修道院のあった更に奥の畑仕事も週一回位実習をやった記憶があります。

私も就職と同時に旧制中学の四年生を担任させられ(卒業時には岩高二期生)、実習の時は荷車に肥料を積んで上田まで行ったり、稲の収穫が終わると米の一部を持って三田商店の理事長まで行った思い出があります。また、当時盛岡の普通高校は岩手高と盛岡一高だけで、学業の面でもスポーツの面でも大変活気があり、大学の進学率も良く、一流大学にもどしどし入学し、スポーツも体操、テニス、水泳、ラグビー等も強く、今から考えれば岩手高校の全盛時代であったように思います。この私学の名門として昔日の元気をなんとか現在の岩高に取り戻してほしいと思っています。

古希を迎えられた皆さんに対し、私も七十九歳、昔の思い出まだまだつきませんが、その一端を書いてご勘弁願いたいと思い、駄文を並べた次第であります。

九月末日



お孫さんと楽しく



叙勲記念祝賀会 H13.12.8